# 長房・並木・城山手地域での健康な地域づくり事業

―地域住民と共働で行う健康づくり活動―

| 八 | 王 | 子 | 保 | 健 | 所 |
|---|---|---|---|---|---|
|---|---|---|---|---|---|

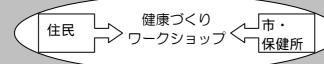
| 実施年度       | 開始 平成13年度 終了(予定)平成15年度   |
|------------|--|
| 7 112 1 12 | 介護保険制度による介護サービスの充実が進められている中、健康日本21では、  |
|            | 健康寿命の概念が採り上げられ、介護を必要としないで、いきいきと生活できるた  |
|            | めの予防活動が、ますます重要な課題となっている。市の保健活動も、これまでの  |
|            | 寝たきり対策から予防活動への拡充が求められているが、その活動手法はまだ充分  |
| 背景         | に確立されていない。長房・並木・城山手地域は市内でも高齢化率が高く、また多  |
|            | くの困難事例が保健所、保健センターに持ち込まれる地域である。そこで、モデル  |
|            | 地域として、ヘルスプロモーションを理念とした健康な地域づくり活動を、市と協  |
|            | 動で実施する。  |
|            | 地域住民の主体的参画を基本にした予防活動により、地域住民の健康の維持、増   |
|            | 進を図り、寝たきりを予防することを目標とする。また、本事業をモデル事業とし  |
| 目標         | て、他地域へ広めていくための予防活動の手法を検証する。さらに、これらの活動  |
|            | を市と協働で実施することを通し、保健所の市町村支援活動のあり方を検討する。  |
|            | 八王子市保健センターとの共同プロジェクトチームを基盤に活動を推進した。  |
|            | 1 住民との課題の共有化及び活動の検討:住民との健康づくりワークショップの実   |
|            | 施  |
|            | 2 住民活動への支援   |
|            | - 「ころんず」~~~  <br>  (1) ワークショップから直接生まれた健康づくりボランティアによる閉じこもり  |
|            | 予防活動への支援   |
| 事業内容       | (2) 住民協議会や自治会、老人会等の既存組織による健康づくり活動への支援  |
| 7 7 7 1    | (3) 新たなボランティアや自主活動グループの活動開始及び継続への支援  |
|            | 3 住民活動グループのネットワークづくり:健康な地域づくりへむけた自主的な地域  |
|            | 活動グループの交流会等の実施   |
|            | 4 これらの活動の評価をとおした活動手法の検証:アンケート調査、インタビュー調  |
|            | 査、事例検討等をとおして、活動評価を行い、健康な地域づくり活動技術を検討、  |
|            | 整理した。  |
|            | 1 健康づくり活動としての評価:地域リーダーの健康な地域づくりへの意識化、  |
|            |  |
|            | 地域ホランティアによる閉じこもり予防沽動や目治会の健康つくり沽動等の開  |
|            | 地域ボランティアによる閉じこもり予防活動や自治会の健康づくり活動等の開始、地域のネットワークづくりへと展開し、地域エンパワーメントへつながった。   |
|            | 始、地域のネットワークづくりへと展開し、地域エンパワーメントへつながった。  |
|            | 始、地域のネットワークづくりへと展開し、地域エンパワーメントへつながった。<br>2 市町村支援としての評価:市と現場を共にし、企画・実践・評価を共働するこ   |
| 評価         | 始、地域のネットワークづくりへと展開し、地域エンパワーメントへつながった。<br>2 市町村支援としての評価:市と現場を共にし、企画・実践・評価を共働することで、ヘルスプロモーションの理念及び手法を共有することができた。またこれ   |
| 評価         | 始、地域のネットワークづくりへと展開し、地域エンパワーメントへつながった。 2 市町村支援としての評価:市と現場を共にし、企画・実践・評価を共働することで、ヘルスプロモーションの理念及び手法を共有することができた。またこれらの地域づくり活動の技術についての検討・整理は、市活動のモデルとなった。  |
| 評価         | 始、地域のネットワークづくりへと展開し、地域エンパワーメントへつながった。  2 市町村支援としての評価:市と現場を共にし、企画・実践・評価を共働することで、ヘルスプロモーションの理念及び手法を共有することができた。またこれらの地域づくり活動の技術についての検討・整理は、市活動のモデルとなった。以上のような実践や評価を共有することで、連携が強化されたと考える。  |
| 評価         | 始、地域のネットワークづくりへと展開し、地域エンパワーメントへつながった。 2 市町村支援としての評価:市と現場を共にし、企画・実践・評価を共働することで、ヘルスプロモーションの理念及び手法を共有することができた。またこれらの地域づくり活動の技術についての検討・整理は、市活動のモデルとなった。  |
| 評価         | 始、地域のネットワークづくりへと展開し、地域エンパワーメントへつながった。  2 市町村支援としての評価:市と現場を共にし、企画・実践・評価を共働することで、ヘルスプロモーションの理念及び手法を共有することができた。またこれらの地域づくり活動の技術についての検討・整理は、市活動のモデルとなった。以上のような実践や評価を共有することで、連携が強化されたと考える。  3 今後の課題:課題別推進プランとしては H15 年度で終了となるため、今後市が                                    |
|            | 始、地域のネットワークづくりへと展開し、地域エンパワーメントへつながった。  2 市町村支援としての評価:市と現場を共にし、企画・実践・評価を共働することで、ヘルスプロモーションの理念及び手法を共有することができた。またこれらの地域づくり活動の技術についての検討・整理は、市活動のモデルとなった。以上のような実践や評価を共有することで、連携が強化されたと考える。  3 今後の課題:課題別推進プランとしてはH15年度で終了となるため、今後市がとりくむ健康づくり活動に対する保健所としての支援を体制づくりが課題であ   |
| 評価問合せ先     | 始、地域のネットワークづくりへと展開し、地域エンパワーメントへつながった。  2 市町村支援としての評価:市と現場を共にし、企画・実践・評価を共働することで、ヘルスプロモーションの理念及び手法を共有することができた。またこれらの地域づくり活動の技術についての検討・整理は、市活動のモデルとなった。以上のような実践や評価を共有することで、連携が強化されたと考える。  3 今後の課題:課題別推進プランとしてはH15年度で終了となるため、今後市がとりくむ健康づくり活動に対する保健所としての支援を体制づくりが課題である。 |

### 1. 3年間の活動の経過

### 準備期 地域に近づく・第1期 地域を耕す

- (1) アンケート調査「高齢者すこやか調査」
- (2) グループインタビュー(民生委員)
- (3) 地区懇談会(自治会役員)

# 第2期 地域へのしかけづくり



<地域課題>ふれあい、支えあい、 閉じこもり予防、世代間交流

#### 第3期 住民による活動のはじまり(住民活動支援)

健康づくりボランティアの誕生 →閉じこもり予防活動の開始 住民協議会・自治会・老人会等での健康づくり活動の取組

ふれあいサロ ン活動の誕生

男の料理教室後 参加者の自主活 動の誕生

#### 第4期 地域の育みあい

地域リーダーの活動支援 地域活動グループの交流会 地域活動の報告会

> 健康な地域づくりの定着 全市的健康づくり活動との連動

#### 活動の評価

- (1) 個別ケースからみ た評価(ケーススタ ディ)
- (2) 自主活動の評価(ア ンケート調査・イン タピュー調査)
- (3) 地域づくり活動と しての評価(ケース 検討)
- (4) 活動ガイドライン のまとめ

#### 2. 活動の評価と地域づくりのガイドライン

#### (1) 身近な地域での住民活動の評価(とじこもり予防の例会)

#### ケーススタディ

身近な地域での住民による集いは以下のような機能を果たしていると考えられた。 閉じこもり傾向の生活から、サービス導入のきっかけとなり、通所サービスにつ ながる。

会に参加することで、地域につながりを持つきっかけとなる。

生活意欲を高め I ADL (Instrumental Activity of Daily Living 手段的日常生活動作)改善につながる。

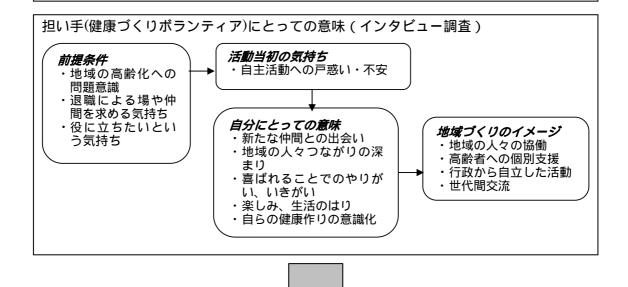
また、いずれの事例も訪問指導事業による個別支援活動の中で「長房青春の会」を利用している。個別支援との組合せにより、より効果的に機能すると考えられる。

#### 参加者へのアンケート調査(1回目と10ヵ月後に2回目を実施)

1回目と2回目の縦断調査で、改善傾向が見られた項目は主観的健康感、転倒経験、近所づきあい、外出先の個数であった。一方友人や家族等のサポートネットワークについては、変化はなかった。

参加者の参加による主観的変化では、健康づくりへの意識化や、社会関係の拡大、自己認識の変容に効果がみられた。

上記より、身近な地域での集いは、参加者の健康づくりへの動機付けを高め健康な ライフスタイルへの行動変容に効果がみられる。さらに、地域のつながりの促進と なり閉じこもり予防に対し有効と考えられる。

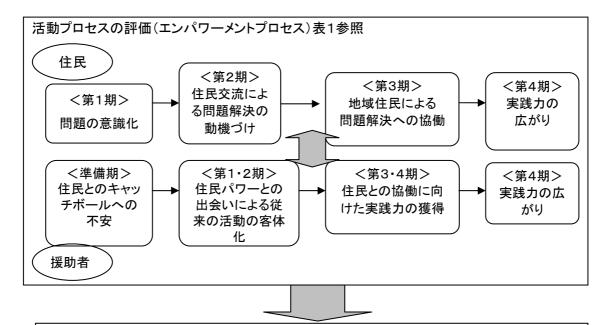


#### ガイドライン1. 健康な地域づくり活動の意味

地域の課題を共有し、住民自らが取り組むことは、住民同士の相互支援をはぐくみ、 身近な地域でのつながりを築く。これは新たな課題解決にむけての地域の解決能力 の向上を促進する。

## (2)地域づくり活動のプロセス評価

| 活動     | <br>手法の評価            |   |
|--------|----------------------|---|
| 時期     | 手 法                  | 効 果   |
| 準備     | 既存資料からの情報<br>収集      | 地域の抱えている健康課題を顕在化することができた。この結果が<br>活動の基礎データとなった。また、要介護予備軍のニーズを把握で                |
| 期      | アンケート調査              | きた。   |
| 第<br>1 | グループインタビュ<br>一・地区懇談会 | 健康課題を地域リーダーと共有することができ、健康な地域づくりへ<br>の意識化につながった。住民の望むQOLをスタッフ間で共有し、これ             |
| 期      | プリシード・プロシー<br>ド・モデル  | を実現させるための手法を選択できた。  |
| 第<br>2 | ワークショップ              | 地域住民と健康課題を共有し、「こんな町にしたい」という住民の思いを言語化し、Uの木で、目に見える形にまとめた。この言語化や形                  |
| 期      | Uの木発想法               | にするというプロセスから、できるところから自分たちで実現しようと<br>健康づくりボランティアが発足し、閉じこもり予防活動(長房青春の<br>会)が始まった。 |
| 第      | 健康教育                 | 活動を展開していくうちに地域の人材やグループとつながりができて   |
| 3<br>期 | 自主グル一プ支援             | きた。さらに、住民の自主的な健康づくり活動につながるような、その<br>グループに合わせた活動を展開できた。                          |
| 第<br>4 | リーダー講習会・グループ交流会・報告   | リーダーたちのエンパワーメントにつながった。地域の健康づくり活動が根付いていくための、ネットワークづくりのきっかけとなった。                  |
| 期      | 会                    |   |



ガイドライン2. 地域のエンパワーメントを目指した活動(項目のみ抜粋)

- ① 保健従事者の日常活動は地域づくり活動をすすめるアンテナ
- ② 地域の実情や課題を量的、質的に知る。
- ③ 地域リーダーとパートナーになり、地域課題を共有化する
- ④ 住民との課題を共有し解決をともにさぐる。
- ⑤ 住民と健康問題を共有することで、住民の主体的参画を促進する(**言語化、**目に見える**形にする、仲間の出会い**をつくる。)。
- ⑥ 住民活動の時期に応じた支援
- ⑦ 地域の連帯、つながりを支援
- ⑧ 職員の不安やとまどいの解消

| K |
|---|
| 4 |
|   |
| J |
| 重 |
| 믰 |
|   |
| 表 |

| í        |                                       | 無地無  | 御・記  | 御の記  | 御の罪  | 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一                         |
|----------|---------------------------------------|--|--|--|--|---|
|          | 時期                                    | <b>年期初</b><br>H12.10~H13.1   | <b>35 1 20</b><br>H13.2~H14.2  | <b>35.2%</b><br>H14.3~H14.8  | H14.9~H14.12   | <b>第4初</b><br>H15.1~  |
|          | 特徵                                    | 地域に近づく   | ( 神楽楽神 中 )   | 地域へのしかけづくり   | ( 住民による活動のはじまり   | 地域の育みあい   |
|          | と と と と と と と と と と と と と と と と と と と | 既存組織の把握  は対に  が  にの  にの  には  には  には  には  には  には  には  には              | 地域の実態把権神は、   | 地域住民との課題共有は日の中では、  | 住民の自主的な活動への支援  | 住民活動のネットワーク支援   |
|          |                                       |  |  | エスの日土活動への割らかり  |  |   |
| 把        |                                       | 民生委員、自治会長への説明・相談   | アンケート調査<br>(65歳以上の高齢者200人)   | ワークショップの開催(4回)   | 既存グループの健康づくり活動の<br>支援(住民協議会、自治会、自主<br>グループ)                                |   |
| 動内       |                                       | 民生委員定例会での説明  | グループ・インタビュー<br>(民生委員)  | 健康づくりボランティアの組織化  | 健康づくリボランティアの活動支援   |   |
| 汝        | 具体的内容                                 | 住民協議会での説明  | 地区懇談会(自治会役員)   |  |  |   |
|          |                                       |  |  |  |  | 地域活動グループ交流会<br>男の料理教室<br>地域活動報告会                              |
|          | 住民協議会                                 |  |  |  | 地域福祉大会での健康教育   |   |
|          | 町会·自治会                                |  |  |  | ミニワークショップ・健康教育   |   |
|          | 健康づくり推進委員                             |  |  | 健康づくりボランティアの誕生   | 閉じこもり予防の例会   |   |
|          | ボランティアグループ                            |  |  |  |  | ふれあいサロン活動 ────▶   |
| 往民       | 自主活動                                  |  |  |  |  | 男の料理教室→自主活動──   |
| の動       | おばのエンパワーメント                           |  | (地域の潜在的課題)<br>の意識化   | 性民間の交流による<br>問題解決への動機付け  | 地域住民による問題解決<br>への実践・協働   | と   |
| Hu       |                                       | 高齢化率 17.5%   | <b>〈アンケート調査</b> >とじこもり高齢<br>者の割合13.8%<br><b>〈住民の声〉</b><br>「とじこもりが心配」<br>「子どもと高齢者が一緒につどえる場があれば」<br>「出てこない人をセンターテーブル<br>へ」 | 〈ワークショップでの声~こんな<br>町にしたい~〉<br>交流・仲間づくり、子どもと高齢者<br>の交流、身近なところで健康づく<br>りや趣味の集まりをもてる町 | <b>くボランティア・自治会役員の声</b><br>>「できることから自分達で実現<br>を」                            | <b>くボランティア・自治会役員の声</b><br>>「他のグループの人たちと交流<br>できる機会がもっとあればと思う」 |
| チームのプロジェ | 主な検討内容                                | 調査の計画<br>地域リーダーへの説明準備  | 調査結果等から地域課題の分析全体の活動計画の検討   | ワークショップの実施方法の検討・評価   | 住民活動への支援の検討  | 地域づくりへの展開の検討<br>全市的展開のための活動評価                                 |
| 動きクト     | 職員のエンパワ-メント                           | 住民と行政の出会い<br>~協働への始動   | (従来の活動からの転換<br>への意識化   | (住民パワーとの出会いによ<br>◆ る新たな視点の獲得   | 住民との協働にむけた<br>実践力の獲得   | ●遍的実践力への広がり   |
|          | 活動ポイント                                | 日常活動の中での地域リーダー<br>とのネットワーク   | リーダーの動機付け  | 地域課題を住民同志・住民と行政<br>で共有するしかけ(言語化・仲間<br>との出会い)                                       | 自主活動の支援:具体的活動の<br>イメージ化、活動資金等に関する<br>制度利用の情報提供                             | グループのネットワーク化  |
|          | 市との連携                                 | 〇保健所としても次年度の事業<br>予算を要求し協同することを示す<br>ことで、市の中でのモデル活動へ<br>の取り組みを組織的に支援 | 〇調査等で得たデータを分析による地域診断や計画の検討をとおしてヘルスプロモーションの考え方や手法の共有手法の共有   | 〇住民とのキャッチボールをしながら進める地域づくりの手法へのがら進める地域づくりの手法への不安をもに実施するこで、手法の有効性を確認                 | 〇支援者側が後ろにひき、支援 () 者側の援助方法を共に学ぶ。<br>〇千代田生命地域保健推進賞の<br>応募への支援(組織内へのア<br>ピール) | 〇活動の振り返り、評価   |
|          |                                       |  |  |  |  |   |